

アンケート

2005.12.17 朝日・大学パートナーズシンポジウム —アンケート—

- 途中からの参加でしたが、いろいろな資料など見れ、聞けて良かったです。
☆「森あそびのすすめ」を聞けなかったのが残念です。またその講演資料などあれば欲しいです。
- 私は京都府美山町の谷あいの小部落に住んでいます。朝は零下5～7℃。全てが凍りついたような朝の空気が身を引き締めます。夜中はすぐ裏山で鹿が空気を引き裂くような声で鳴きます。河合先生のおっしゃるように生命の息吹を感じながら寝床に入ります。それは春夏秋冬 無数の命が我が身を支えてくれています。その支えは経済性や欲でつながっている訳ではありません。この微妙な喜びを味わいに来られませんか。街の生活の病みを解決できると思うのですが。
- 中村先生（金沢大）が言われたように、里山学、里山作り活動グループの情報整理と、その情報が伝達されることを願っています。
- 地元共有林の里山保全に取り組み始めました。底地権、立木支配権、入会権、の3権地権のからみがあり、特に支配権者の理解が必要です。権利者とボランティアが一体になって始める予定です。本日の講演は、里山に対する考え方を再認識でき、これからの取り組みの活力になりました。「大学の森」の活動とは主体が異なるものの、今後もどこかで接点があることを期待したいと思います。
- 農学系の進路を目指しています。今日のお話は大変参考になりました。ありがとうございました。ところで、今日のお話の中で、“ハチ等も里山の一部”とありましたが、それら危険なものも含めては、子供らを里山にいれ、里山に触れさせるのは難しいの

ではないでしょうか。それらの対策はどうするのでしょうか。また、今回経済との関連のお話がありましたが、他の学問とのからみもあるのか、ぜひお聞きしてみたいです。

●里山を保護したいのか、里山を増やしたいのか、人が利用するという点での里山というものを復活させたいのか、などと何を最も重要視するのかをはっきりとする必要があると思われる。全てをプラス方向にするのはほとんど不可能であると思うので、まず何を成功させるべきなのか、という主旨を一つに絞って、それからひとつずつ進めていくべきだと感じた。私が今一番すべきだと思ったのは、子供が自然に触れる機会を与えるということであると思う。とりあえずは私立の小学校などと協力して、子供を自然の環境内に触れさせればいいのでは、と思いました。

●せっかく大学という場で開催し、大学という特色があるにも関わらず、学生の参加が少ない。もっと若い世代の人たちを巻き込んでいくことはできないだろうか。

●龍谷の森にも角間の里のような、そこに集う人たちの情報交換や交流の場が必要ではないだろうか？もちろん深草学舎ではなく、瀬田学舎にそういう場所があって欲しい。

●すでに壊された自然を元に戻すことはできない。発達する前の生活に戻ることもできない。でも、ここから新たな里山と人との関わり方、共存の仕方を考え、実行していくことによって、未来が開けてくるかもしれない。

●学生の参加が少ないのが残念です。学内・他大学との学生に向けた広報に力を入れたら、もっと良かったと思います。

●里山について、人と生態系の相互作用という点から、とても興味を持っています。今回のシンポジウムでは、その問題や、さまざまな在り方の提案を聞けて、勉強になりました。

- 大変参考になりました。里山づくりの難しさとそれに参画するための障害（自分自身の・・・75歳）を自覚しましたが、山歩きの折の倒木に心を痛めながら何もできない・・・何をしたら良いかわからないもどかしさを感じました。
- もともと自然が好きであるが、今回のシンポジウムを機会に森などの自然とさらに接して（遊ぶ）いきたいと考えている。
- 荒れてしまった里山の再生の具体的例、方法、問題点なども研究発表して欲しい。
- 現在、神社の境内の荒れた竹林を伐採し、もみじの植林をしています。竹林の手入れや管理が分かりにくいので、方法を研究してもらえないか。
- 現実の子供たちに「人と人」との対話を質的にも量的にも保証する場と機会を増やすことの大切さが良くわかりました（河合先生のお話）。学校での、地域でのコミュニケーションを獲得する為「大人の生活」に時間的なゆとりが保証される様願っております。
- ヨーロッパの人々の労働時間と日本人のそれとは随分差があるので、日本人もいまこそ「人間らしい生活」可能なゆとりを要求しましょう。
- 定期的に「里山」の状況を紹介し、地域の安全、発展に寄与させて欲しい。
- 日本は森林国と言われながら、森を大事にしない。又、森林、森について知らないことが多いです。身近な里山も放置しています。里山から森林まで今から勉強していきたいと思っています。今回も、勉強になりました。こういう機会を多く設けてください。
- 里山の荒廃はひどいものがありますが、農業をしたこともない都会型の人間が、里山保全をすすめるのには大変な勉強とその運営力が問われると思います。木を切る、整

備ということが自然保護ではよく言われますが、もう2度と元に戻らないものも多いですから、指導的立場の方は熟考していただきたいと思います。

●荒廃していく里山、森をどう生かしていくか。高齢化、過疎化をどうするか、日本全国で考えていかなければいけない問題のきっかけになってくれればいいと思い参加しました。今後役に立てればと思います。

●次世代を担う子供たちにも、里山のよさを、今後機会をつくって森のよさ、遊びの楽しさをアドバイスできたらなぁと感じました。

●石川・京都・滋賀・金沢の様々な地域・大学・市民の間の学術面・研究面・生活面・環境面などの様々な立場の人々の意見を、多面的に、しかも同時に話し合うことは大変意味のある会合であったと思います。

●大学は学生を教育するのは当然だが、小さな子供を育てる事も大事な仕事ではないのかという河合先生の考えに同感です。「里山」とは「子供」と言い換えることができるのではないのでしょうか……。心をこめて育てることが大事なのでは……。？学問としての里山研究だけでは発展性がないのかもしれませんが。経済性も加味していくことも必要かも。

●薪炭林・人工林としての里山から脱却し、観光資源・木の実・果実採集の里山に変化すれば、里山が生き返るのではないか。竹に侵蝕され、サルトリイバラに占領されている里山を見るのは悲しいものです。

●当里山プロジェクトに期待しております。里山保全のための理由づけ（説明材料）として、次の3つのアプローチを考えています。

①生活環境提供源として人里に近い……

②生態系論的に、比較的にまともな生態系（里山）がいびつな生態系（市街など）を補完する

③文化論的に、民俗、宗教、教育、情操

多少里山の知識あるつもりですので、協力可能です。

- 失礼ながら、市民活動にありがちの、ムード的運動だけでなく、学術的な財産を残してください。「ボランティアに限界あり。どうすれば？⇒生業化」高峰さんの意見は大切。同意見です。
- 話を聞いてためになりました。参考になりました。ただもう一步、オオムラサキ等昆虫、生物の保護等具体的なことが書いてあれば有難いです。ありがとうございました。経済学の問題と里山の提起との問題が面白かったです。
- 大変良かったと思います。また機会があれば来たいと思います。私の住んでいるところは里山が近くに無いのですが、どのように里山を楽しんだら良いのですか？タメ池、川等があります。
- 里山をどう活かすかという話が多く聞けたのが良かった。
- これからの里山の重要性がよくわかった。今までの、経済資源、環境保全という森の役割に加えて、文化資源としていくことが大切だと気づいた。考えれば、考えるほど、森ではいろいろなことが学べると思った。私も同じ授業を受けるにしても、教室で講義を聞くよりも、実際に森で学べたらいいのと思うし、遊ぶにしても、人間がつくった公園よりも規模の大きい、森という自然の中で遊べたら良いと思う。里山といっても、とても大きく、広いものなので、守り、そこを使っていくというのは、難しいことだと思う。しかし、それぞれの団体が協力し合い、交流しあって、里山を活かしていけるようになったらいいと思う。これからも、里山での取り組みや里山のはたらきを、いろいろな形でみんなに知らせていってほしいと思う。エコツアーは良いと思った。
- 里山と云われる場所は、かつては地域の人々の生活の場であって、そこはつらく、苦

しい作業（労働）の場所であった。そのことを忘れずに、活動の場にして下さい。

●なぜ里山がなくなったのか。もっと表に出して下さい。

●杉の植林活動が活発になり久しいですが、我が国の針葉樹林の間伐等が人手不足で整備されていない現状と、国産材を使った住居需要のPRとか輸入外材との関係の研究成果を知りたいと思います。

●大学が都心から郊外に離れ始めた頃、学生の街がさびれると騒がれました。その頃から、このような環境、森林保全に興味を持ってきました。学問の場が、このような活動に力を入れていただけることは、次の世代へ引き継ぐ大きな力となります。里山保全のみならず、高峰さんのおっしゃる人工林の保全はさらに急務と思っています。

●近々、長岡京の竹林を守る活動に参加する予定で、今日里山の話聞かせていただき、自然の中での活動の大切さが分かり、楽しみになりました。これからもより深く関わっていこうと思います。

●里山の取り組み、楽しく聞きました。子供が自然に触れる機会は、とても大切だと思っています。子供たちが毎日の外遊びすらできなくなる状況を残念に思っています。

●正直な話、会場に足を踏み入れる前は、これほど大規模なイベントだとは思ってもいなかった。全く恥ずかしい話ではあるが、具体的な内容は殆ど知らずここに来た。里山に関するシンポジウムには、九州で一度参加したことがあるが、もちろん今回のようにTV会議をするわけでもなかったので、比較的小規模であった。里山に関しては、知識不足な面があるのは否めないが、それでも森や里山に関わることで得ることのできる「知」というものは、非常に興味深いものである。今回のシンポジウムは、広く市民に里山の「知」を提供する大学としての龍大や金沢大の姿勢を再確認できる場として非常に興味深かった。

- 「自然を大切にする」ということを次世代の子供たちに伝えていく、そのことが地球環境を守っていく一歩になる。そのために、私にできる事は・・・とすごく重く受け止めていたように思う。森遊びを楽しむことを通して、情操を深め、感性の豊かな子供を育てられる・・・河合先生の講演に肩の張りがパッととれた気がします。
- 今日は里山シンポジウムに参加でき、とてもうれしく思います。大学生にはなかなか里山に行く機会がないので、そういう機会を設けてもらえればうれしいです。
- 幼少の折、ターザンの映画を見て、山で遊ぶことを覚えた。もちろんそこに自然があった。都会に出て、企業という戦場の中で「朝駆け夜討ち」の最前線で働き続けた。そして健康をわずらい病気になり、企業戦士をリタイアした。入院中、ギリシャの医学者ヒポクラティスの「自然は回復する力を持っている。自然から遠ざかるほど人は病気になる」という言葉に目からウロコが落ち、自然から遠ざかっていた自分を反省（仕事に追われ、自然活動が不足した）。退職を機に自然に携わる機会を考えている。
- 今回のシンポジウムは大変勉強になった。世の中、考える人と労働を提供する人とがいるとしたら・・・！高峰博保氏の話の中に、ボランティアではダメだという話があったが、私はこれから労力提供のボランティアに携わることを考えて、第2の人生を送ることを考えている。
- 義務教育の中に、自然に楽しむ時間や教材を増やすなどの必須科目があっても良いと思われるが・・・？
- 江南先生が冒頭に発言されていた考え方を普及し、具体化することが今後の発展性を表していると思います。この理論化は、里山活動の重要な一部に違いないという気がします。それがはっきり打ち出されれば、運動が持続的、自己増殖的になると思います。「新しい大学の可能性を追求した」という司会者の言葉も重要。
- 森遊びのすすめの河合先生の話から、江南先生、森のある大学と市民との共生等が未

来世代を渡す子供への大人の責任ではないかということを考えると、我々大人としては、森とか自然を通しての教育とか遊びをしていく事を本日は学べて良かったと感じました。

●金沢大学みたいに協力研究員とか協力補助員とかの制度が龍谷大にもあれば、参加したい良い方法である。現在小生ボランティアで、自然観察、保全活動中の身であり、シニア自然大学で勉強している者です。

●当方、現在、里山整備～人工林の間伐まで複数のNPOに所属し、活動中。

●今回のシンポジウムに参加させて頂いて、貴重な意見、問題点など聞き、今後の活動に活かしたく、どこの組織も課題は同じと改めて確認した次第です。今後の御活躍を期待しております。

●地域づくりの重要性を地域がつかんで、その中に、龍谷大、金沢大の森の利用が位置づけられるといいですね。

●560㍑の視点が龍大のビデオにはなかったのは今後の課題では！

●もともと田舎生まれの小生にとっては、今日の諸先生方のお話はとてもなつかしいし、又興味深いものでした。山で、森で、野原で、川原で、田んぼや畑を見ながら遊んだ思い出の数々が頭に浮かんできます。自然ってなんとすばらしいものでありましょうか。地球温暖化の悪影響で、自然が傷つけられ、死に至ろうとしている今は、わたしたち一人ひとりが自然というものを大切に、いつまでも緑の古里を守りたいものです。

●こよなく緑を愛する私です。本当にいい小生のすすめる生き甲斐ある生涯学習になりました。

●「大学生にこそ環境を考えさせること～」との話がシンポジウムの前にありましたが、大学生になってからでは決定的に遅すぎます。私は、中学生対象の塾の講師をやっていますが、子供たちの日々は「学校」と「塾」で成績を上げ、一つでもランクが上の高校に入るための受験勉強、次に友達付き合い、TVゲーム・CD・漫画・人気タレント、これが全てです。本は読まない、他のことはどうでも良い、「環境」「自然」「温暖化云々」など全く関心なし。一言で言うなら、「養鶏」そのもの。塾は利益最優先の「教育」の皮を被った業界です。こういうことをさせる親は、「一体どう生きればよいのか」何もわかっていません。だから、塾へ行かせて、よい学校へというのが親の一般。このような世界に生きている子供たちになすべき。

●河合先生の講演は非常に面白く、感銘深かった。当文化会館の事業に講師として招聘しているところです。

●里山をめぐる報告、ディスカッションも大変実践的で、興味深く参考になりました。

●河合先生の、子供たちの自然離れへの危機感には納得させられました。人格形成の上でも、子供たちが自然に接する中で、いろいろ学んでいくことは重要だと思います。「森遊び」を広めるためにも、身近な自然である「里山」は今後ますます大切になっていくことと思います。

●龍谷の森や金沢での取り組みを知ることができて良かったです。

●里山は心のふる里であり、大地の母という感じです。里山を想い出すとは、私にとっては故郷（石川県能登半島）を思うことです。いつまでも自然を、そして故郷を大切にしたいものです。今後大いに参加したいと思っています。宜しくお願い致します。

●石川の金沢などで、畑や田んぼをつくっていたが、私ももう一回田植えをして、黄色い稲穂が風になびくのを見たい。あと汚れた池をきれいにして、泳げるまではいなくても、日本に昔からいたモロコやフナやメダカがたくさん泳いでいる池にしたい。

また昔はその辺の溝にドジョウが泳いでいたので、米をつくるのなら無農薬にして、ドジョウが泳ぐ田を作りたい。

- 元来そうであったように、人と森とが共に生きていけるような関係が築けたら良いなと思います。私たちももっともっと集落の方々と話をして交流を深めたいと思います。そして環境についてもっともっと学んでいきたいです。

- 江南氏：私自身が長くいてきた疑問点をよく整理していると感じました。産業の発展と自然保護が対立するものでないことを改めて自覚したいと思います。森の持つ知的魅力と新しい発見。これこそが今後の里山に必要なものです。

- 石川地域高峰先生の、里山でお金の集まる事業として、第三産業であるエコツーリズムの企画というものが非常に面白いと感じました。そういった、里山利用を継続的に行える方法が何か考えられれば良いと思います。また、学問的なレベルでの「里山」という環境の価値、またその概念の意味など、人間と、生物学、生態学的な研究の両方から見た里山の姿などが、目に見える形で資料として出れば、あらゆる分野から里山学という分野が注目されると思います。里山とは人とふれあうことで存在が証明されます。里山としてふれられるイベントがあれば・・・。

- 全国で「里山」というテーマについて意見交換が行える場は、非常に貴重であると思います。十人十色、百人百色の関係者の方々の百通りの意見には、しばしば開眼させられます。どんどん全国に認知を広げられるような広報ができて、より多くの人々の意見のつながりができれば良いですね。「里山」の名の元に「人をつなぎ」、「里山」という環境が未来をひらき、「里山」を今に生かす、さらにより活かす活動を期待しております。里山＝つながりだと思えるように。

- 金沢の高峰さんの考えを文書にしたものがあれば、教えて頂きたい。

- テレビ会議は成功していたと思うが、金沢大学の講演者の照明が暗く、表情が見えず

残念だった。映像の構図や音声、カメラの配置（気にならない）などは良かった。

- 質問票を整理する時間が足りなかったのではないか。
- 講演者・パネラーの内容を書きこめる講演要旨集のようなものを準備していただければありがたいです。朝日新聞でまとめがでるのでしょうか。
- 河合さんのワイルドライフマネージメントの意見は龍谷大でやった（4/24）鳥獣害ワークショップで論じていた点をまさについたものでした。まとめを期待します。